



空き家利活用コンテスト2022 優秀賞



非住宅部門

事例 04

ゲストハウス縁庵

初めて訪れてもどこか懐かしい
茅葺き屋根の古民家がつなぐ地域の縁



観光協会のインバウンド業務、旅館業、飲食業を行いながら、外国語講座で韓国語や中国語を教えていた受賞者。それらが同時に行える場所はないかと探していたところ、立派な茅葺き屋根と囲炉裏を持つこの古民家に出合って一目惚れしたという。

約20年の空き家状態で庭園は雑木林と化し、天井は崩れ、内壁が剥がれ落ち、床も抜けかけていたが、一つ一つ丁寧に改修。漆喰を塗り直し、照明を全て入れ替え。庭園は家族や知人の力を借り、約1年かけて整備したという。茅葺き屋根は本来、定期的に囲炉裏で炭をたくことで維持されるが、防火管理上難しく、保護塗料を塗布することで現状維持できるようにした。

1棟貸しの宿として貸し出しており、家族連れやサーフィン客にも好まれているとか。また、居間の東側にある2間続きの和室は中央の襖を取って12畳の大広間に変更、イベントや会議等に使用できるようにもしている。地域住民を中心とする交流活動拠点として、受賞者自身が開催する外国語講座をはじめ、朗読会、各種展示会、音楽鑑賞会などが開催されており、地域のにぎわいを創り出している。

玄関を上がると、囲炉裏のある居間がお出迎え。この古民家の中心にあり、各部屋へと誘うエントランス的な役割を担う。素足に心地いい畳、いぶされた小屋組の梁、格子の引き戸と、古民家の落ち着いた佇まいに心がホッとするよう。



茅葺き屋根を支える小屋組は、日本家屋の魅力の一つ。



国道沿いという立地ながら玄関までのアプローチに日本庭園があり、奥へ進むほどに喧騒が遠のいていく。破損していた雨樋やガラスはきれいに修繕され、こぢんまりした旅館のよう。誰でも受け入れてくれるような朗らかな雰囲気が伝わってくる。



居間の隣にはキッチンが。宿泊客が食事を作ったり料理教室が開かれたり、いつもにぎやかな声が響く。



(写真上) 小屋裏を活用したギャラリースペースには地元アーティストの作品が。茅葺き屋根の内側も間近に見られ面白い。

(写真左下) 6畳の客室「藤の間」。邸内の一番奥にあり、静かにゆったり過ごすことができる。

(写真右下) 2間をつなげた12畳の「鶴の間」は、地域交流活動の拠点として重宝されている。



[DATA]

- 【所在地】東伯郡湯梨浜町田後302-1
- 【構造】木造2階建て 【築年月】昭和49年5月1日
- 【改修後の用途】一棟貸しのゲストハウス、外国語講座、料理教室等
- 【間取り構成】個室3室(客室2室・管理人室1室)、居間(囲炉裏)、ギャラリースペース(小屋裏)、ダイニング・キッチン、シャワー室、トイレ
- 【改修期間】2020年2月～2021年4月
- 【改修費用】約1,000万円